



『まいごばなし』

※スパークスのボトムアップ・リサーチを通じて、
MY小話として舞妓さんが日本株の情報をお伝えします。
スパークスの日本株の情報発信レポート



第47号(2010年10月6日)

「続・不況を前向きに考える。」

【はじめに:『百年に一度の〇〇〇』という悲観的な見出しが目立った2009年から早一年】
前回2009年6月に『不況を前向きに考える』というタイトルでレポートさせていただきました。
そのとき私は「混沌とした時期には新しいものが生まれやすい」との仮説のもと、これまでの不況期に世に送り出されたものの振り返りと、不況だからこそ5-10年後の世界を想像してみようという提案をさせていただきました。

【2009年を振り返る:価格志向は継続し、環境関連は製品の多様化が進む】
まず、毎年発表される『日経MJヒット商品番付』を基に昨年を振り返りたいと思います。

東		西
エコカー ハイブリッド車普及加速	横綱	激安ジーンズ 1000円未満の商品相次ぐ
フリー(麒麟ビール) ビール風味、アルコール分なし	大関	LED 発行ダイオード。消費電力は白熱電球の8分の1
規格外野菜	関脇	餃子の王将
下取り 家庭の不用品を再利用	小结	ツイッター 140字以内の簡易ブログ
アタックNeo	前頭	ドラゴンクエストIX
ファストファッション	同	フィット
韓国旅行	同	仏像
新型インフル対策グッズ	同	ウーノフォグパー
お弁当	同	THIS IS IT
戦国BASARA	同	ランニングサイクリング
オリンパスデジカメ「PEN E-P1」	同	ザ・ビートルズ・リマスターCD
ペイブレード	同	タウンニー
山崎豊子	同	1Q84
デジタルメモ帳「ポメラ」	同	けいおん!
シニア・ビューティ	同	蒸気レスIH炊飯器
粉もん	同	ハイボール
sweet	同	ヤマダ電機「LABI1 日本総本店 池袋」
い・ろ・は・す	同	ノート

出所:日経MJを基に作成



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。



『まいこばなし』

スパークスの日本株の情報発信レポート



同番付から2009年のヒット商品を総括すると、以下の傾向が読み取れます。

■『餃子の王将』や『ファストファッション』など、安くてよいものを求める傾向は継続中。

■環境関連では、『エコカー』や『LED』など、製品面での広がりを見せる。

この2つの傾向はメーカー側にも消費者側にも定着した感があり、今後も続くと見られます。

【新たな注目分野：モバイル・インターネット関連は中期的な拡大局面入りへ】

2010年も残りわずかです。今年もさまざまな新商品やサービスが登場しました。その中でも、モバイル・インターネット関連分野は中期的な拡大局面に入ったと思われます。

カテゴリー	代表的な商品およびサービス	備考
ハードウェア	スマートフォン(例:iPhone)、タブレット PC(例:iPad)等	PCと携帯電話の間に位置する製品群の 利用者が急速に増加している。
コミュニケーション・ツール	Twitter、モバゲー、GREE、ニコニコ生放 送、Ustream等	PCもしくは携帯電話を利用する人の多く が何らかのサービスを利用。
モバイル・ブロードバンド・サービス	イー・モバイル等	サービス分野の競争が本格化し、以前より より安く利用可能になった。

出所:スパークス・アセット・マネジメント

同分野は、それぞれが複合的に重なり合いながら急成長しており、日本に限らず、世界的に見ても持続的な拡大が期待出来ると考えられます。

【終わりに:いついかなるときでも、新しい物事の胎動と、投資のチャンスがある】

年明け当初は悲観一色だった2009年も、季節が過ぎ行くにつれ、人々の心持も経済指標も企業業績も明るくなっていきました。また、そうした状況下でも、上述したような新しい物事の胎動がありました。

いついかなるときでも、何らかの前向きな変化はあります。そうした変化を具に捉え、投資リターンに変えられる様に鋭意努力したいと思います。

※上記はあくまでも当コラムの内容の理解を深めていただくためのご参考資料であり、特定の有価証券を推奨しているものではありません。

※当コラムは執筆者の見解が含まれている場合があり、スパークス・アセット・マネジメント株式会社の見解と異なることがあります。



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。